

平成24年度 事業計画書

目 次

I 平成 24 年度事業計画（総括）

- | | |
|--------|---|
| 1 基本方針 | 3 |
| 2 重点項目 | 3 |

II 事業計画

- | | |
|------------------------|----|
| 1 調査啓発事業 | 4 |
| 2 不燃用プリペイド袋リサイクル 事業 | 5 |
| 3 資源化事業 | 6 |
| (1) 剪定枝等処理事業 | 6 |
| (2) びん・缶・ペットボトル選別事業 | 7 |
| (3) 施設管理受託事業 | 8 |
| ① ごみ資源化工場施設管理事業 | 8 |
| ② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 | 9 |
| ③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 | 10 |
| ④ 札幌市リサイクル団地管理事業 | 11 |
| (4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 | 12 |
| 4 事業系ごみ収集運搬事業 | 13 |

I 平成 24 年度事業計画（総括）

1 基本方針

当社は、資源循環型社会の推進を図ることを基本理念とし、また、札幌市の廃棄物処理行政の一翼を担う法人として、事業系ごみを中心とした都市廃棄物の適正処理・リサイクルにおける中核的役割を果たすことで、地域の発展や環境の保全に貢献するために、積極的に事業に取り組んできた。

しかしながら、長引く景気の低迷などにより、受託事業においては札幌市の委託費の縮減をもたらしている。さらに、収集運搬事業は、排出事業者の経費節減のための圧縮機の導入及び分別・リサイクルの取り組みを行うことで、ごみ質が変わるとともに、ごみ比重が上昇し、厳しい事業運営を強いられてきている。

札幌市では、平成 21 年 7 月から家庭ごみの有料化と新ごみルールを実施し、ごみの減量化と資源化に大きな成果をあげた。焼却ごみ量は、平成 16 年度実績 70 万トンから平成 29 年度までに 24 万トン以上の減量を目指していたが、平成 22 年度で既に約 26 万 4 千トンの減少となり、篠路清掃工場を廃止した。一方、当社も、家庭系資源ごみのうち、びん・缶・ペットボトルについては当社の施設において選別を行い、また、廃プラスチックごみ、雑がみ等については、札幌市の選別施設の管理を受託し選別業務の総括を行っているが、家庭ごみの有料化に伴い資源ごみ量が大幅に増加したものの、精力的に業務を遂行し、ごみ処理に対する地域社会の要請に対応してきた。

当社の収集する事業系廃棄物についても、市では事業ごみ排出指導員を配置し、減量計画書の提出や個別排出指導の対象事業所を拡大して、事業系ごみの減量・リサイクルの促進を図っている。

一般財団法人移行の初年度にあたる平成 24 年度においては、収集運搬事業を始め、各事業のより一層の強化・徹底を図るとともに、職員の意識改革、顧客満足度の向上、積極的な情報発信、環境マネジメントシステムの運用など、経営体質の強化に取り組み、市民、事業者の多様化・高度化する社会的ニーズに適切に対応した事業展開を図っていく。

2 重点項目

- (1) 顧客満足度の向上の徹底
- (2) 資源物の分別及びリサイクルを推進する提案型営業の徹底
- (3) 札幌市のごみ処理手数料改定に伴う諸準備
- (4) 公社事業の理解を促す顧客・市民への積極的な情報発信
- (5) 事務・事業の見直し及び経費の節減の徹底
- (6) 継続的な環境負荷の低減を推進するため環境マネジメントシステムの的確な運用
- (7) 一般財団法人としての円滑な業務執行

II 事業計画

1 調査啓発事業（予算額 44,749 千円）

(1) 調査研究事業

① ごみ重量計量システムの実証実験

平成 23 年 10 月からごみ重量計量システムを搭載した収集車を導入して計量システムの精度、容積計量との比較などの実証実験を開始した。平成 23 年度末現在で 3 台のごみ重量計量システム搭載車が稼働している。平成 24 年度は顧客の業務形態及びごみ種ごとのごみ比重などに着目したデータの収集を主眼に実験を継続する。

② 資源ごみ残さの低減に関する調査研究

中沼・駒岡資源選別センターでは、家庭系及び事業系のびん・缶・ペットボトルを国及び容器包装リサイクル協会が定める分別基準等に基づいて選別した上で、再商品化事業者などに引き渡してリサイクルを図っている。平成 22 年度実績では、選別時に発生する可燃・不燃残さは資源物を含めた全体量の約 28%を占めていることから、これら残さの低減化に向けた対策について調査研究を行う。

③ RDF（固形燃料）生産に関する調査研究

札幌市の廃棄物施策により、ごみの減量化が図られ、リサイクルが進んできていることから、RDFの原料となる木くずや紙くずが年々減少し、これに伴ってRDF生産量も漸減している。生産されたRDFは厚別副都心地域の地域暖房を担っている北海道地域暖房㈱の主要な熱源となっているため、安定したRDFの供給が課題となっている。剪定枝チップや刈草等の利用による原料の多様化とともに、減少傾向にある発熱量を増加させるための方策も含めて生産実験を積み重ねる。

(2) 普及啓発活動

当社は、資源循環型社会の実現に向けて、ごみ減量及びリサイクルの重要性について、広く市民や顧客に対する普及・啓発に努めていく。

① 広報活動

- i) 年度ごとの事業の実施状況等を報告するために「事業概要」を発行する。
- ii) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を中心としたデータ集を発行する。
- iii) ホームページを通じて、公社事業の最新情報を発信する。
- iv) 当公社の事業を始め廃棄物の処理や分別・リサイクルの取組み事例などを紹介する情報誌「アンパス」を発行する。

② 各種イベントへの参加

環境関連のイベントに積極的に出展し、ごみ減量及びリサイクルの啓発に努める。

③ イベントへの協賛及び広告掲載等によるPR

「YOSAKOIソーラン祭り」、「さっぽろ夏まつり」、「さっぽろ雪まつり」等のイベントに協賛し、地域の発展と活性化に寄与するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用し、公社の役割と事業を幅広くPRする。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (予算額 55,952 千円)

札幌市内の少量排出事業所から排出される不燃用プリペイド袋（資源物・燃やせないごみ専用）は、これまでは札幌市の埋立地で埋立処分されていたが、袋の中に混入されているびん・缶・ペットボトル等の再生可能な資源物のリサイクルの推進等が課題となっていた。

当社は、環境保全等の観点から、平成20年4月から不燃用プリペイド袋に混入されている再生可能な資源物を手選別し、資源物のリサイクルの推進と埋立地延命化に貢献している。

(1) 処理計画

- ① ごみ受入量 2,400 t
- ② 資源物の選別品目等

選別する資源物、及び選別後の処理は、次のとおりである。

選別品目	選別後の処理
びん・缶・ペットボトル	手選別施設で一括選別後、中沼資源選別センターに搬入して、リサイクル品目ごとに再選別する。
その他金属	金属再生業者に売却する。
軟質プラスチックなど	ごみ資源化工場で固形燃料の原料としてリサイクルする。

(2) 運転・運搬計画

- ① 受入日 土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
- ② 受入時間 8時30分～17時00分
- ③ 施設運転日 土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
- ④ 施設運転時間 8時30分～17時00分
- ⑤ 資源物及び残渣の運搬 コンテナ（フックロール）で運搬する。

3 資源化事業 (予算額 1,097,277 千円)

(1) 剪定枝等処理事業 (予算額 54,705 千円)

剪定枝等処理事業は、これまで埋立処分されてきた剪定枝、伐採木などをチップ化してリサイクルを図るもので、ごみ資源化工場旧チップ工場破碎施設の使用許可を得て、当会社の自主事業として平成20年10月から製造を開始している。

搬入された剪定枝や伐採木などは、破碎処理の工程を経て、スクリーンで大きさ45mm以下のチップに選別され、堆肥や畜舎の敷きわら、木質燃料などに利用されている。

この取組みは、資源の有効活用を図るだけでなく埋立地の延命化に貢献している。

① 処理計画

- i) 剪定枝等受入量 4,800 t
- ii) チップ生産量 4,700 t
- iii) チップ販売先 堆肥生産事業者、牧場運営事業者他

② 運転計画

- i) 受入日 日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
- ii) 受入時間 8時00分～17時00分
- iii) 施設運転日 日曜日及び1月1日～3日を除く毎日

③ 受入する樹木

街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、伐根で受入条件は次のとおりである。

- ・ 幹は直径80cm以内で、長さが2m以内の剪定枝などの樹木
- ・ 根は最大寸法（直径、または長さ）が1m以内の土を落としたもの

④ 料金（消費税込み）

- i) 受入料金 119.7円/10kg
- ii) 販売料金 500円/t（大口販売先は200円/t）

⑤ 施設概要

項目	設備内容
破碎設備	横型回転破碎機 1基 (15 t/時間)
伐採木等前処理設備	油圧式木材カッター (最大開口幅：80cm)
製品貯留ヤード	270 m ²

(2) びん・缶・ペットボトル選別事業 (予算額 891,747 千円)

平成10年10月から札幌市が分別収集している家庭系及び公社が収集している事業系のびん・缶・ペットボトルの選別を行うため、当公社が中沼のリサイクル団地と駒岡清掃工場隣接地に建設した両資源選別センターで、これら資源物の選別業務を札幌市より受託事業及び自主事業として実施している。

札幌市が平成21年7月に家庭から出る「燃やせるごみ・燃やせないごみ」を有料化したことで、無料収集する家庭系資源物が増加したため、中沼資源選別センターに導入した二交代制を維持するとともに、中沼と駒岡の両資源選別センターで搬入量などについて調整を図りながら、資源物のより効率的な処理を実施する。

また、平成23年度に引き続き、公社が収集している不燃用プリペイド袋の中から選別された、びん・缶・ペットボトルの受入れ及び再選別を中沼資源選別センターにおいて実施し、事業系資源物の再生利用の向上を図る。

選別された資源物は、次のようにリサイクルを図る。

- ① びん類について、家庭系（市）のものは、指定法人ルートで再商品化事業者に、事業系（公社）のものは、リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図る。
- ② 缶類については、家庭系（市）及び事業系（公社）ともに、リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図る。
- ③ ペットボトルについては、家庭系（市）のものは、指定法人ルートで再商品化事業者へ、事業系（公社）のものは、リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図る。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、知的障がい者に雇用の場を提供している。

処理計画等の概要は、次のとおりである。

項目	中沼資源選別センター	駒岡資源選別センター					
処理計画量	家庭系 22,700 t 事業系 1,600 t 計 24,300 t ※事業系には、不燃用プリペイド袋から選別された資源物400 tを含む	家庭系 11,100 t 事業系 500 t 計 11,600 t					
	○処理計画総量 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>家庭系</td> <td>33,800 t (94.2%)</td> </tr> <tr> <td>事業系</td> <td>2,100 t (5.8%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>35,900 t (100.0%)</td> </tr> </table>		家庭系	33,800 t (94.2%)	事業系	2,100 t (5.8%)	計
家庭系	33,800 t (94.2%)						
事業系	2,100 t (5.8%)						
計	35,900 t (100.0%)						
受入日	土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日						
受入時間	8時30分～17時00分						
運転日	土・日曜日及び1月1日～3日と定期整備、点検日を除く毎日						
運転時間	8時30分～20時45分	8時30分～17時00分					

(3) 施設管理受託事業 (予算額 132,470 千円)

当社は、札幌市の4施設の施設管理(総括管理)業務を受託しており、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、次の事業を行っている。

① ごみ資源化工場施設管理事業 (予算額 66,233 千円)

札幌市は、ごみの適正処理を始め、再資源化を図るために、平成2年3月、全国に先駆けて事業系ごみを利用して固形燃料(RDF)を生産する工場を建設した。

当社は、札幌市より施設管理業務を受託し、ごみ資源化工場の搬入ごみの計量、手数料徴収を含む工場の運営に関する総括管理を行っている。

i) 総括管理業務

ア 処理計画

・ごみ受入量	20,700 t
・固形燃料生産量	17,600 t
・固形燃料出荷先	北海道地域暖房株
・固形燃料出荷量	17,600 t

イ 運転・運搬計画

・受入日	1月1日～3日を除く毎日
・受入時間	8時00分～17時00分
・工場運転日	日曜日及び1月1日～3日と定期整備期間を除く毎日
・工場運転時間	7時00分～22時00分
・勤務状況	{ 1直 7時00分～15時00分 2直 14時00分～22時00分 日勤 8時30分～16時30分
・固形燃料及び残さの運搬	コンテナ(フックロール)で運搬する。

ii) 計量業務

ごみ資源化工場に搬入されるごみの計量と手数料の徴収、固形燃料搬出量などの計量を行う。

ア 業務日	日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
イ 業務時間	8時00分～17時00分
ウ 一般廃棄物処理手数料	110円/10kg
エ 産業廃棄物処分費用	110.2円/10kg(循環税相当額分含む)

② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (予算額 32,699 千円)

札幌市は、容器包装リサイクル法の施行に合わせて、平成12年7月から家庭系「容器包装プラスチック」の分別収集を開始した。これらは指定法人が再生処理を委託する再商品化事業者へ引き渡され、再生プラスチックや高炉還元剤などにリサイクルされている。

中沼プラスチック選別センターは、国及び指定法人が定める分別基準に適合するように選別して圧縮梱包等の処理を行う施設である。

当社は、札幌市より施設管理業務を受託し、同市が別途発注している関連業務を含めた総括管理等の業務を行っている。

i) 総括管理業務

ア 処理計画

- ・プラスチックごみ受入量 29,800t
- ・ベール引き渡し量 25,000t

イ 運転・運搬計画等

- ・受入日 土曜日・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
- ・受入時間 8時30分～17時00分
- ・運転日 日曜日及び1月1日～3日と定期整備期間を除く毎日
- ・運転時間 8時30分～17時00分
- ・残さ運搬 コンテナ（フックロール）で運搬する。
- ・ベールの引き渡し 再商品化事業者へ引き渡す。

③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (予算額 14,222 千円)

平成21年7月から札幌市の家庭系ごみの収集が有料となったことに合わせ、札幌市は新しい分別基準を設けて「雑がみ」の無料収集を開始し、これに伴い、同市が中沼雑がみ選別センターを建設した。同センターは、札幌市リサイクル団地の「旧建設系廃材リサイクルセンター」の建屋内に、受け入れた雑がみを選別・不適物除去・圧縮梱包するための選別ラインを設置した施設である。圧縮梱包された雑がみは、民間事業者によって再生紙としてリサイクルされている。当社は、札幌市より施設管理業務を受託し、同市が別途発注している関連業務を含めた総括管理等の業務を行っている。

なお、この施設の二次手選別作業は、知的障がい者の雇用を促進するため札幌市が福祉団体に業務を委託するなど、福祉施策とも連動した体制で運営している。

i) 総括管理業務

ア 処理計画

・雑がみ受入量 13,000t

イ ベール引き渡し量

・Aベール (主要古紙) 1,000t

・Bベール (雑がみ) 9,500t

ii) 運転・運搬計画等

ア 受入日 土曜日・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日

イ 受入時間 8時30分～17時00分

ウ 運転日 日曜日及び1月1日～3日と定期整備期間を除く毎日

エ 運転時間 8時30分～17時00分

オ 残さ運搬 コンテナ (フックロール) で運搬する。

カ ベールの引き渡し 再商品化事業者へ引き渡す。

④ 札幌市リサイクル団地管理事業（予算額 19,316 千円）

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群である。団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体が各々行っている。

団地内には「リサイクル資料館」と福利厚生施設「ふれあいホール」があり、リサイクル資料館の1階では、団地内で操業する各施設の処理工程パネルやリサイクル品等が展示され、2階は団地見学者への総合的な説明の場や、研修・会議等の会場として利用されている。

当社は、リサイクル団地の連絡調整、及び共用施設や団地内道路の維持管理等の業務を札幌市より受託している。

i) リサイクル団地管理業務

- ア リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- イ リサイクル資料館・ふれあいホール・井水ポンプ室の維持管理業務
- ウ リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- エ リサイクル団地雨水調整池等の整備業務
- オ その他管理業務

(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 (予算額 18,355 千円)

札幌市では、平成9年度から大型ごみを有料化し、それまでのステーション方式での収集を廃止した上で、大型ごみ収集センターで、市民からの戸別収集依頼を受け付けることになった。

当会社では、平成11年度から大型ごみ収集センターの管理運営業務を札幌市より受託している。

① 事業計画

- i) 業務内容 大型ごみ収集・リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整
- ii) 業務日 土・日曜日及び年末年始を除く毎日
(受付業務は年末年始を除く毎日)
- iii) 業務時間 8時30分～17時00分
- iv) 受付及び問合せ件数

予約	389,000件 (変更等含む)
問合せ	101,000件
計	490,000件
- v) 収集件数 325,000件
- vi) 収集個数 775,000個
- vii) 収集量 11,000 t

② 業務場所

札幌市中央区大通西2丁目 NTT大通2丁目ビル5階

4 事業系ごみ収集運搬事業 (予算額 5,448,799 千円)

札幌市は、事業所から排出されるごみの減量とリサイクルの安定的・効率的な推進を図るため、平成6年4月より事業系一般廃棄物に係る収集運搬を当公社に一元化した。この結果、当公社では、現在市内全域の約3万2千箇所の事業所から約200台の収集車両により一般廃棄物を集約的に収集運搬している。また、この様に一元化されたことで、分別収集が徹底されるとともに、廃棄物のリサイクルを通して資源の有効利用が図られている。

平成22年度、前年度より1.3%減少したごみ量は、平成23年度には、前年度に比べて約0.6%の減少となる見込みであり、事業系一般廃棄物の年間総収集量に対するリサイクル率も23%を超えている。

平成24年度は、引き続き排出事業所への提案営業を推進することで、ごみ収集運搬料金の改定に向けて準備を進め、CS（顧客満足）活動を徹底することで、顧客のニーズに応えられるよう努めていくものとする。

平成24年度の収集計画量は、ごみ量の減少率がやや落ち着いてきているものの、分別・リサイクルの推進等による影響で、一般ごみ・資源化ごみなどの減少が見込まれ、総量では2.9%減少するものと推測している。

(1) 事業計画

① 収集対象事業所

i) 一般収集事業所（伝票収集）	9,900 件
ii) プリペイド袋収集事業所	21,900 件

② 収集計画量

i) 一般ごみ	102,349 t
ii) 資源化ごみ	10,830 t
iii) 生ごみ	24,654 t
iv) その他ごみ（プリペイド袋など）	22,424 t
v) 再生可能品	1,700 t

(びん・缶・ペットボトル及び一斗缶)

(2) 重点事業

① ごみ収集運搬料金改定に向けての準備

平成24年度は、札幌市の清掃手数料及び焼却・埋立手数料の改定が予定されているため、改定が実施された場合には、公社としても平成25年度を目途にごみ収集運搬料金の改定をせざるを得ない状況となる。従って、排出事業所への理解と協力を得るために、平成24年4月以降周到な準備を進めていく。

② 提案営業の実践

排出事業所に対して具体的な分別方法等を提案することにより、分別・リサイクルを推進する。

③ 資源物の分別収集の徹底

i) 資源化ごみ

資源化ごみについては、一般ごみ等に混入されている紙くず等の分別未実施の事業所の分別収集を推進することにより固形燃料の原料の確保に努める。

ii) 生ごみ

定山溪の生ごみ処理施設の稼働により、民間の排出事業所において生ごみリサイクルを推進していくものとする。

iii) びん・缶・ペットボトル

びん・缶・ペットボトルについては、引き続き、未分別の排出事業所に対して分別して排出するよう促す。

iv) 焼却不適物の適正処理

一般ごみに混入している蛍光管等の焼却不適物（産業廃棄物）及びびん・缶・ペットボトルの再生可能品に混入している不適物については、排出事業所に分別の協力を依頼する。

v) 未排出少量排出事業所の訪問調査

1年間にわたって排出実績のない少量排出事業所に対して、計画的に訪問し、適正処理への理解を得られるよう営業する。

④ ごみ重量計量システムの実証実験協力

重量計量が可能なシステムを搭載した収集車両2車種の実証実験及び排出事業者単位にごみ重量データの蓄積を行い、地域、規模、業種、ごみ種毎のごみ重量の検証を調査啓発事業で行う。